

防災教育フォーラム in はまなか

(6月25日(土) 霧多布高等学校体育館)

釧路東高校では、東日本大震災後は、毎年被災地に出向き被災地支援のボランティアの活動を行っています。その活動後には、地域の方を招き「自分たちは何ができるのか」をテーマに、生徒自ら見た被災地の様子を話したり、地域の方から防災についての意見交換をおこなう報告会を行っています。今回は、この取り組みについて「防災教育inはまなか」の中で実践発表をする機会を頂きましたので、その様子をお伝えします。

当日は、生徒会役員を中心に9名の生徒が、「釧路東高学の被災地支援と地域防災貢献」というテーマで本校が取り組んでいる実践の数々を紹介し、この活動をさらに広げていきたいと今後の抱負を述べて発表は終了しました。

発表終了後には、霧多布高校の全校生徒と浜中町の皆さんと一緒に複数のグループに分かれ「避難所運営ゲーム(HUG)」に参加しました。その中では、本校生徒がグループのリーダーとして進行役を行うなど積極的に活動する姿を見ることができました。

この体験を通じて、会場にお越し頂いた皆様から、生徒たちは、今までやってきた取り組みに対する自信と今後に向けてのやる気などを頂きました。

最後になりましたが、防災教育研究会の皆様や北海道教育大学釧路校の野村卓教授、金子設計の職員の方々をはじめ多くの関係者の皆様と当日参加して頂いた皆様に厚く感謝申し上げます。



100名以上の聴衆を前に発表しました。また、研究者の方からの質問に答える場面もありました。



6~7名の霧多布高校生・地域住民のグループに入り、HUGの進行をしました。



HUGを初めて行った皆さんも熱心に相談しています。



図面は浜中中学校に避難した想定で行いました。